

## 【報告】 第15回観光情報学会全国 大会裏方奮闘記 —大会優秀賞を受賞して

建築・デザイン学科  
小池 博

でいろいろな先生方からたいへんなお褒めの言葉を頂いた。その酒の席で、次の年の14回の全国大会は静岡県立大学で開催されることが決定していたので、じゃあその次は近畿大学産業理工学部で、みたいな雰囲気が出ていたように思う。

その荒川先生から直々にご指名を受けた肥川先生が主査となり、きゅうしゅう観光情報学会研究会が立ち上げられた。それを受け、平成29年に正式に観光情報学会の方から平成30年度の大会をうちの大学で開催できないかと打診された。その年の6月、その後大会運営委員となる肥川先生、日高先生、坂田先生、藤尾先生、長谷川直樹先生、そして私の6名で相談し、観光情報学会の大会を開催することが近畿大学としても利益になるのであればという思いで、開催を決定した。

その後、大会運営委員の先生方で打合せを行い、私は広報を担当することとなった。ただし予算が極端に少ない中での広報である。やらなければならぬ作業が非常に多い。量もそうだが種類も多岐にわたる。特にたいへんだったのが、全国大会専用のホームページを製作することだった。本当は情報学科の藤尾先生にお願いしようと考えていたが、数学が専門ということで断られてしまった。それで、ホームページの作成はウェブデザインなので、建築・デザイン学科の私が、PDFを貼り付けるだけの簡単なホームページでも構わないとの条件で、引き受けることになったのである。年が明けて平成30年に入り、授業や卒業設計の展示会などが終わった2月下旬、そのホームページの

モックアップのデザインに取りかかった。前年の第14回大会のホームページを中心に、過去の大会ホームページを参考に、全体の構成を考えた。また、せっかくなので文字だけの味気ないホームページではなく、それなりにデザインしたいと考えた。ただし、ホームページの作成ツールを持っていないわけでもなく、HTMLに詳しいわけでもない。まずは図書館で初めてのホームページのような本を6冊ほど借り、その中の付録CDに入っていたフリーソフトを使って作成することとした。デザイン自体はイラストレーターで行い、そのPDFをもとにフリーソフトでホームページを作成した。興味のある方は「観光情報学会第15回全国大会」で検索してもらおうとまずは学会のホームページに飛ぶので、そこにリンクが貼ってあるのでご覧いただきたい。

ホームページネットで閲覧できるようにするためには、サーバーへとアップしなくてはならない。フリーのサーバーでもよいのだが、URLにどうしても「kindai」を入れてたかった。大学の電算機センターにお願いし、更新が決まっていた、近いうちに廃棄されるサーバーに無理やり登録させてもらった。スケジュール的にもタイトで、今宿先生をはじめ、電算機センターの桑俣さんや三好さんには年度末の忙しい中、多大なご尽力を頂き、この場で感謝申し上げます。

ホームページと並んで、広報で大事な作業がポスターやチラシの製作である。平成28年に行われた近畿大学産業理工学部創立50周年の記念イベント、国際シンポジウムポスターを私がデザインしていたこともあり、今回のポスターも私がデザインすることになった。いま思い起こせば、その当時の国際シンポジウムを主催した国際交流委員会の委員長も肥川先生であった。そのときの国際シンポジウムのポスターのデザインをもとに、今回の観光情報学会大会のポスターのデザインを進めた。飯塚の観光資源と言えば、NHKの朝ドラでも取り上げられた旧伊藤伝右衛門邸が真っ先にあげられる。従って旧伊藤伝右衛門邸の写真を中心に、コスモスやりんご、遠賀川といった自然に関わる写真をカラージュした。背景はやはり自然をテーマとし、緑を基調にグラデーションをつけた。こうして出来上がったのが図1である。

観光情報学会大会運営委員会の先生方にはたいへん好評であった。それも、ポスターはA2判であったが、そのまま縮小してA4判のチラシとしても使用することとした。さらには、第15回大会の講演予稿集(A4判)の表紙としてもそのまま使用して頂くこととなった。従って、学会会員や大会参加者へは講演予稿集を送付すれば、場所や日程などの情報を伴うチラシが表紙となっているため、チラシを同封する必要がなく、わずかではあったが手間とコストを節約することができた。



図1 観光情報学会第15回全国大会ポスター

広報に含まれる作業ではないが、ホームページを立ち上げた関係で、大会への発表、参加の申込などについても私が取りまとめることとなった。ホームページ中のリンクからみな、大会での発表や、聴講などを申し込んでくるのであるが、その申込のメールに対して「受理しました」と自動的に返信するシステムなどももちろんない。申込のメールが届くたびに、私が一通一通受諾メールを返信していった。文章は決めていたので、宛名を変更して返信すればよいだけではあったが、面倒な作業であった。数は多くなかったが、大会に関しての質疑にも答えていった。(多かったのは領収書関係の質疑であった。)

大会講演費、参加費は、銀行振り込みでお願いし、振込みし次第メールで連絡してもらおうよう依頼した。会計は坂田先生がご担当され、本大会のための口座を福岡銀行に開設してもらい、定期的に振込み状況を確認し、報告して頂いた。その報告を確認して私が振り込み確認メールを配信した。振り込み関連は、申請よりは手間がかかったが、お金が絡んでいたわりにはスムーズに事が運んだと思う。

講演予稿のPDFファイルも私の方に送ってもらい、私が管理した。最終的には講演予稿集の作成を担当された長谷川直樹先生に全ファイルをお渡ししたのであるが、1名ほど、講演予稿集製本のリミットに間に合わなかった講演者がいた。それでもなんとか大会の2、3日まえには講演予稿のPDFを送ってきてもらったので、大会当日、プリントアウトし、参加者へ配布することができた。

講演の申込は、観光情報学会の規模から40を目標としていたが、なかなか数字が伸び

なかった。本大学からも、私をはじめ、私の研究室の当時の大学院1年生1名と2年生2名がエントリーした。運営委員の藤尾先生もエントリーしてくださった。さらには経営ビジネス学科の大箸先生もエントリーしてくださった。大箸先生の発表のセッションの司会をなぜか私がすることとなったのであるが、飯塚市のアマチュア画家である諸藤浩之氏の飯塚市の風景を対象としたスケッチをVRで再現するという大変興味深い発表であった。大箸先生は観光情報学会の会員ではなかったのであるが、決して安くはない登録料を支払ってまで発表してくださった。

それでも締切時には20少しの申込しかされなかった。実は観光情報学会は本大会のわずか4か月後の11月4日に広島で研究会を開催することとなっており、そちらにも中国四国地方を中心にいくつかの講演発表が流れていた。後日談ではあるが、最終的に広島の研究會の方でも30近くの講演発表が行われている。そのようなスケジュールを組んだ観光情報学会に対して、肥川先生と文句を言った記憶がある。

講演発表の数が思うように集まらず、仕方が無いので締切を1週間延長した。ただし、締切の延長はほとんどの学会で行っており、本大会でも1週間延長することを前提として、申込締切を設定していたので、想定内ではあった。すると、そこからが本番とばかりに申込が増え、最終的には40に迫る37の講演申込を頂いた。申請する方も1週間延長は見込んでいたようだ。

会場の設営は、前日の金曜日まで平常授業が行われていたため、前日の夕方から行われた。設営の担当は藤尾先生で、教室の表示や案内板などをどこに配置するか計画してもらい、製作と実際に配置までして頂いた。一番面倒だったのは3号館1階に設営した受付本部であったが、大学院生の手も借り、2時間とからず設営を終えることができた。また、本大会は田川市、嘉麻市、NECソリューションイノベーター九州支社から協賛を頂くことができ、かれらのブースも、同じく3号館1階の受付フロアに設置され、なかなかの賑わいを見せていた。

私は当初、前年度に修士課程を修了した学生の研究であった街路空間の誘因性について発表しようと原稿をまとめていた。この研究は長崎市を対象とし、そこを訪れる人の行動を追跡調査し、街路空間とそこへ引き寄せられる来街者の割合(誘引率)の関係を調査したものである。長崎という日本有数の観光地であることもあり、来街者には多くの観光客も含まれていたもので、観光情報学会の発表テーマとしてふさわしいと考えて、このテーマで発表しようとしていた。最終的には申込後、大会の直前でテーマをしい

いづか商店街で行ったにぎわい創出実証実験に変更した。実はこちらのテーマで、一緒に実験を手伝ってくれた当事の大学院1年生に発表してもらおうとしたのであるが、諸事情により急遽発表ができなくなり、それであれば、こちらの方が実際に大々的に実験を行なっていることと、商店街や役所の方など、外部の人の協力もあったので、こちらのテーマで私が発表することにした。

結論から申し上げますと、このテーマ変更が功を奏した。なんと、私の発表が、ほかの優秀な発表をおさえて、大会優秀賞に選ばれたのである。正直なところ、裏方に徹しており、講演の発表も公演数を増やすために行ったところが少なからずあり、発表日時も、もともと人気の少ない初日の午前中に、うちの院生と一緒に入れてもらった。優秀賞の対象発表でなくても良かったのであるが、初日の発表はすべて対象となることから、一応、優秀賞の対象発表で申込を行った。もちろん、私としては優秀賞の候補に上がるなどどまったく考えていなかった。

優秀賞は初日の発表のあと、夜に開催される懇親会の席で発表される予定であった。しかし私は事前に自分が受賞することを知ることができた、というか知ってしまった。実は、優秀賞の選考委員会が、初日の発表後速やかに開催され、18時半からの懇親会での発表セレモニーに間に合わせる段取りであったのだが、受賞者の氏名を選考委員の先生方からお聞きし、賞状にプリントする係を私がおおせつかったのである。選考委員会で優秀賞が決定されるとされていた予定時刻の少し前に選考室に伺い、その場で待機していたのであるが、私の発表が最終選考に残っているのに気づいてしまった。最終候補者に自分の名前が上げられていたのを目の当りにし、たいへん驚いた記憶がある。驚きとともに一種のバツの悪さも感じていた。それは選考委員の先生方も同じだったようである。私の発表が選考された直後、そこに私がいるのに気づいた先生方が一言、「あつ」と声を漏らしておられた。それでも一瞬、間を置いて「まあ、規定に触れているわけでもないので問題ないでしょう」といって頂き、めでたく懇親会で大藪会長から大会優秀賞の賞状（自作）を頂くに至った（図2）。

準備の段階では、サーバーやメールアドレス取得のための手続や、ポスターのデザイン、大会講演および参加申請手続と、複雑で仕事量の多い作業を、平常の授業を行いなからこなさなくてはならず、半分ふてくされもしたが、最後、とっておきのサプライズを頂き、個人的にはたいへん印象に残る学会となった。



図2 大藪会長からの賞状の授与